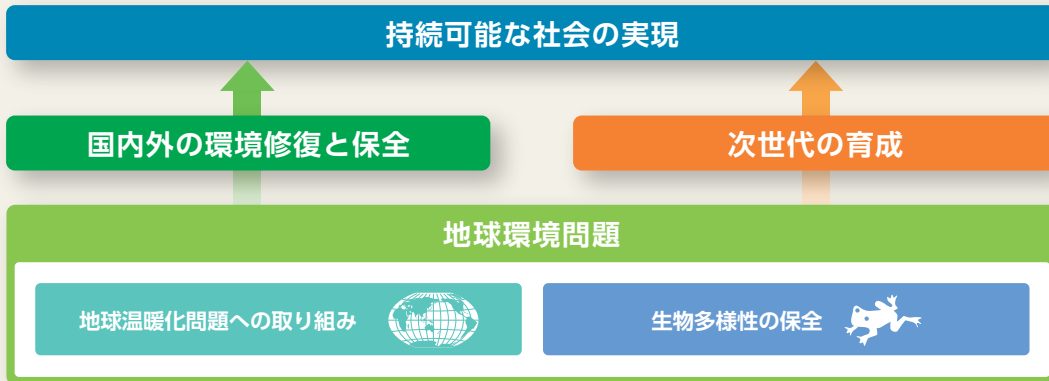


コスモ石油
エコカード基金

「ずっと地球で暮らそう。」 プロジェクトについて



コスモ石油エコカード基金では、「国内外の環境修復と保全」および「次世代の育成」をテーマに、持続可能な社会の実現をめざしています。

本基金で展開している「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクトでは、「地球温暖化問題への取り組み」と「生物多様性の保全」という2つの分野について、環境問題には、貧困、食糧難、教育など、さまざまな社会的な課題が密接に関連しているという現実を踏まえ、本質的な問題解決に取り組んでいます。

2011年度からは、4件のプロジェクトが募集・選考を経て新たに追加されるとともに、東日本大震災の発生を受けて、東北の地域再生に貢献する1件のプロジェクトの支援を決定しました。

New …… 募集・選考を経て新たに追加されたプロジェクト

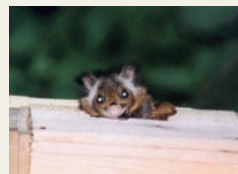
2011年度のプロジェクト

① 熱帯雨林保全 (パプアニューギニア/ソロモン)	⑥ 北タイ山岳地帯 共有林地図作成 (タイ)	New ⑪ どんぐりの森 里山再生 (長野県)
② シルクロード緑化 (中国)	⑦ さとやま学校 (長野県)	New ⑫ ビオトープ浮島 水辺の生態系回復 (埼玉県他)
③ 南太平洋諸国支援 (キリバス/ツバル)	⑧ 野口健 環境学校 (日本国内)	New ⑬ 南太平洋諸国生態系保全 (日本、南太平洋諸国)
④ 秦嶺山脈 森林・生態系回復 (中国)	⑨ 学校の環境教育支援 (日本国内)	New ⑭ ムササビとともに暮らす 里山再生 (山梨県)
⑤ 内モンゴル緑化 (中国)	⑩ 種まき塾 (北海道)	⑮ 東日本大震災復興支援 森は海の恋人 (宮城県)

「生物多様性保全」をテーマに新しく4つのプロジェクトが追加されました。 P6でも紹介

ムササビと共に暮らす 里山再生 (山梨県)

山梨県都留市周辺には里山がたくさんありますが、戦後の林業計画や住宅開発により、山林は荒廃し生態系のバランスも崩れている状態です。里山の生きものであるムササビは、すみかとなる大きな洞(うろ)のある大木や、えさとなる葉や実をつける樹木、飛び回ることのできる適度な間隔の森林のある土地に生息します。現在、都留市のムササビは数が減っていますが、再びたくさんムササビが暮らせる森を取り戻すことで、他のさまざまな生きものにも暮らしやすい生物多様性の豊かな里山を再生しようというプロジェクトです。



巣箱から顔を出したムササビ

どんぐりの森 里山再生 (長野県)

里山保全を進めていた地域で山火事が発生し焼失した4ヘクタールの森を、地域住民や地元の子どもたち、都会からのボランティアの方々とともに植林を行い、交流や環境教育をしながら里山を再生するプロジェクトです。「どんぐりの森」とは、地元の子どもたちにとりどんぐりから苗木を育ててもらい、山火事によって焼失した森林に還す「どんぐり還し」計画を通じて、再びどんぐりが拾える広葉樹の森を取り戻そうという願いを込めて名付けました。



どんぐりから苗木を育てて森へ還す

ビオトープ浮島 水辺の生態系回復 (埼玉県他)

開発により都市や住宅地ができ、便利で豊かな暮らしが広がる一方で、生活排水が流れ込む川や湖沼はコンクリートによる護岸が施され、自然の浄化機能が低下して水質悪化が進んでいます。こうした環境に、間伐材などを使った浮島を設置し、浮島に生えるアザミやヨシなどによって水質浄化を促し、さらに水辺の生態系の回復をめざします。また、浮島づくりの際には市民や子ども、企業、行政などに参加してもらうことで、問題の理解につなげていきます。



数年前に設置した浮島には鳥や魚も集まる

南太平洋諸国生態系 保全 (日本、南太平洋諸国)

パプアニューギニアやフィジー、バヌアツ、ニールカレドニアなどの南太平洋島嶼諸国は、世界有数の熱帯原生林があり、生物多様性の高い地域です。しかし一方で、極楽鳥や木登りカンガルー、希少なランなど、貴重な保護が必要な動植物も数多く存在します。生物多様性への脅威である資源の乱開発や自然環境の破壊に対して、各国では課題を認識しているものの、有効な解決策を見いだせていません。本プロジェクトは、熱帯生態系の持続的な保護のために、環境・経済システム・慣習・文化、教育・法制度など、さまざまな角度から課題を分析し、処方箋となるノウハウを開発・展開することを目的としています。



道なきジャングルの調査行

2011年度ハイライト

エコカード基金
10周年記念

「種まき塾の里親プロジェクト」のご報告

いのちとココロを育む

東日本大震災復興支援
森は海の恋人



植樹祭には地元の子どもたちも数多く参加



笑顔がはじけたツリークライミング

(1ページ目からつづく) 本プロジェクトには、エコカード会員1352人のご応募をいただきました。栽培キットには、富良野の山から採った「工」と「種」を使用。種は発芽しやすさと将来の植林用途を考慮して、「ハルニレ」と「エゾヤマザクラ」の2種類としました。約2カ月後、栽培キットを種まき塾に返送していただいたのは、737人の里親の方々。返送時点で発芽していたのは3割ほどで、ほぼすべてハルニレの芽でした。里親様の手元で芽が出なくても、冬を越えて、この春に新たに発芽するものもあります。5月中旬に視察に訪れた際には、ハルニレの芽がたくさん出ていました。種まき塾によると、夏にかけて徐々にエゾヤマザクラの芽が出てくるそうです。これらは芽は、夏の終わりに地面に植え替えられ、次の冬を越えます。そして、3年から5年ほどかけて、植林に使う苗木に育てます。成長の様子は、今後もお知らせしてまいります。



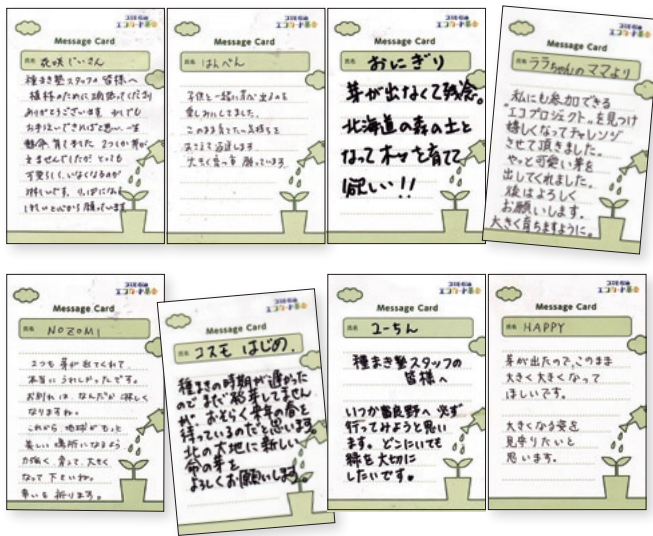
右の小さいのがこの春に出た芽 (~5cmほど)。左の大きいのが昨秋に出た芽 (20~30cm位)

植え替えを待つ苗畑。中央は3年物のエゾマツ、右手には5年物のエゾヤマザクラが育っています

エゾヤマザクラの花



芽が出た方、残念ながら芽が出なかった方からも
たくさんのメッセージをいただきました。

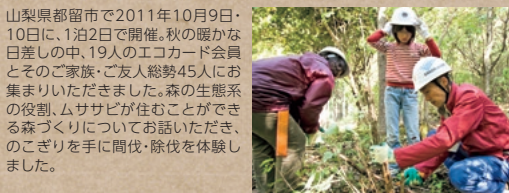


里山に植林をして豊かな三陸の海を守る

エコカード基金は「環境」という視点からの震災復興支援として、地震と津波で甚大な被害を受けた宮城県・気仙沼市で里山の植林活動をするNPO法人「森は海の恋人」を支援しました。植林をして里山が豊かになると、川から海に流れ込む栄養分が三陸の海を豊かにしてくれます。2011年6月5日に、岩手県一関市で23年目となる植樹祭を開催しました。約千二百人も参加者が集まり、復興への想いを込めて約千本の苗木を植樹しました。また、8月には、将来の自然環境を担う子どもたちへの環境教育として、3泊4日の子どもサマースクールを行いました。川遊びや生きものの観察、ツリークライミングをして大いに楽しみました。後日、保護者からは「子どもが戻った」という感謝の言葉をたくさんいただきました。

新プロジェクトでエコツアーを開催

2011年度に開始した新しいプロジェクトの活動を参加して知ってもらおうと、エコカード基金会員を対象にしたエコツアーを開催しました。
ムササビとともに暮らす
里山再生プロジェクト



間伐体験をした森近くの神社にムササビのすみ木があります。夜行性のムササビが、ねぐらとなる洞(うろ)からえさ取りに飛び立つ「目没」の時間と、森から戻る「日の出」の時間に待ち構えて観察。じっと静かに息をひそめて待った甲斐あって、幸運にも全員がムササビを見ることができました。

ビオトープ浮島
水辺の生態系回復プロジェクト



3mを超える丸太や竹を組んでいかだをつくり、間伐材からの炭をココヤシの袋に詰めたものをくくりつけて完成。重量は約600キロにもなります。当日は9基の浮島をつくりました。写真手前が今回の浮島です。奥に写る数年前の浮島のように、いずれ植物が茂り、生きものが集まるようになるでしょう。



埼玉県久喜市の権現堂調節池で2011年9月18日に開催された「行幸湖浮きキフェスタ」のプログラムとして浮島づくりが行われました。当日は汗ばむ陽気の中、フェスタの参加者とともに、15人のエコカード会員とご家族・ご友人にご参加いただきました。